

ジンバブエを知ろう！

大西 京子

相模原市立新宿小学校

実践教科：総合的な学習・2時間

対象学年：5年生 対象人数：38人

(1) 実践の目的

- ・世界には、様々な国や地域があることを知り、世界に目を向けるきっかけとする。
- ・様々な価値観があることを知る。

(2) 授業の構成案 2時間扱い

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|---------------------------|--|---------------------------------------|
| 1 / 2 ジンバブエを知ろう | 1 地図でジンバブエの場所を確認する 2 写真とビデオでジンバブエの生活・学校・自然を紹介する 3 質問コーナー | アフリカ大陸の地図・現地の写真・授業の様子のビデオ・PC・ビデオカメラ |
| 2 / 2 大切なもの・ジンバブエバージョン | 大切なものランキングを比べる | 大切なものランキング・5-2バージョン&ジンバブエバージョン・ビデオ・写真 |

教材

アフリカ大陸の地図・現地の写真・授業の様子のビデオ・PC

授業 1 / 2 「ジンバブエを知ろう」

- 1 地図でジンバブエの場所を確認する
- 2 写真とビデオでジンバブエの生活・学校・自然を紹介する
- 3 質問コーナー

子どもの反応・評価

学校や町、田舎、食べ物、動物、滝、遺跡、人々、子ども・・・
何を見てもめずらしいようでどの写真にも興味を示していた。特に、学校の様子が意外だったようだ。校舎・制服・机など整備されていることに驚いていた。

インフレの話などは逆に難しかったようだ。

所感・反省点

小学生の子どもは、日本と違う国があるということだけで驚きなのだなと思った。そこでとど

まるのではなく、他の国にどのように興味を持続させ、自分との接点を見出させていくことが大切なのだと思った。自分自身がいかに自分なりのテーマを見つけ、それを子どもに投げ掛けていくことが課題である。

授業2 / 2 「大切なものランキング」

ジンバブエの小学生の大切な物ランキングのコピーを一人一枚ずつ渡し、実際にそれを書いてもらった時のビデオを見せて授業の様子を見せた。その後自分の書いた日本語バージョンと見比べて解説し、それぞれが自分のランキングと比べてみる。

子どもの反応・評価

英語を読み取るのは少し大変であったが、子どもたちは番号などを手がかりとしそれなりに読み取っていた。手書き文字で書かれたシートにはそれぞれの名前もあり、ジンバブエの小学生の回答としてよりリアルに感じられたようだ。自分のものと個々に比較することで「ジンバブエの人は…」という漠然としたイメージから、同じ子ども同士であるという実感が湧いてきたように思う。そこから生活のようすや家族のこと、好きな遊びなどを察することができた児童が何人もいた。

所感・反省点

- ・比較の視点を示す所で迷いが生じた。何も言わないでいると、子どもは手にした1枚のシートのみで「ジンバブエの人はスポーツが好きなのだと思った」などという感想を書いていた。そこで自分のシートに立ち返り、自分のランキングが必ずしも日本代表でないことを伝えると、ようやく理解するといった様子だった。
- ・日本の教員が行った授業の様子を子どもたちに見せたが、子どもたちは普段の授業も見たかった様子であった。日本の学校よりも厳格な感じで行っている授業を記録しておけば良かったと感じた。
- ・授業のビデオの後に、サッカーをして遊んだところが入っていて、感想を書く時間に流しっぱなしにしていた。BGMのつもりで解説もしなかったのだが、ほとんどの子どもが釘付けになっている。

「ボールがサッカーボールじゃない」

「裸足だ」

「チームも決めないで勝手に遊んでいるのか？」

「コートは特にないらしい」

「校庭がものすごく広い」

「新宿小学校より緑がいっぱいだ」

「校庭は土だ」

「木が大きい！」……

こんなところにも子どもたちの興味の対象はあったのだ。思惑とは違うところへどんどん進んでいく。

- ・伝えたいことはいろいろあり、材料も十分あったのだが、開発教育としての授業の組み立て方が分からずに難渋した。来年度また同じ教材を使って授業に取り組んでみたい。